

現代の子どものスポーツの教育と心理（1）

～学校教育における子どもをスポーツへ動機付ける教育・心理的要因の研究～

A study about psycho-educational factors to motivate school children to play sports (1)

但尾 哲哉*
山 添 正**
大 森 友美子***

要約 本研究は、スポーツにおける女子学生の自伝的記憶と現在のスポーツの動機との間の関係を吟味することです。95人の被験者は、スポーツに関する1つの自伝的記憶、とくに出来事とそれに続く感情を記述することをもとめられます。この手続きは、速水の考案した「自伝的記憶の半構造化された質問紙」によります。被験者は、自分の自伝的記憶で記述したスポーツをやりたいか、そして1週間の内どれくらいの頻度でやっているかを尋ねられています。

速水によると、小学校では体育の授業、今回の調査では、中学での出来事はクラブ活動の記憶が一番多かった。出来事が、成功経験、失敗経験、正の対人関係、負の対人経験、フロー体験、怪我と危険な経験とその他の7つの経験に分類されました。正の体験は、負の体験より多く思い出されました。出来事の後に続く感情は、正の感情、負の感情と中性の感情に分類されました。正の感情は、負の感情の2倍近く思い出されています。

自伝的記憶の内容と現在のスポーツの動機付けが吟味されました。記憶の中の正の感情は、高い現在の動機付けを示していました。今回特に議論されたのは、感情と動機付けが直接関係するのでなく、そこに先生とかコーチというスポーツ指導者との人間関係の質が介在することが例示されました。

キーワード：動機付け スポーツ 自伝的記憶 感情 人間関係 女子学生

I 問題

自伝的記憶の機能として、「自己」「同一性」の基礎となっていることがあげられます。自分がどのような人間であるかを示す記憶を「自己を定義づける記憶」と呼ばれます。この記憶は失敗経験もあれば成功体験もありますが、人生の未解決のテーマや重要な関心事あるいは目標と結びついており、同一性やパーソナリティにとって重要な役割を果たしています。そして繰

*神戸親和女子大学児童教育学科教授 **神戸親和女子大学児童教育学科教授

***こども教育支援財団 非常勤職員（相談員）

り返し何度も鮮明に想起され、強い感情を呼び覚まされます。

また自己は過去と現在にかかわっているだけでなく、「こうなりたい」あるいは「こうなりたくない」といった未来の自己についてのイメージは「可能自己」とよばれます。そして過去の自分の記憶は、可能自己の内容に影響を及ぼし、それを現実のものにすべく、あるは回避すべく、行動を動機づけ調整すると考えられます。その過程で人は自伝的記憶を想起し、自らの信念や目標や価値観を確認するのです。¹⁾

本研究では、まず、女子学生にスポーツに関する「自伝的記憶」がどのような内容から構成されているかを明らかにすることを目的としています。速水²⁾は「自伝的記憶」を捉えるため、半構造化された自由記述式の質問紙を作っています。本研究は、小学校のスポーツ教育と心理の研究を目指していますので、特に小学校にかんする項目を追加して修正し、速水の研究を追試したものです。

精神分析の創始者であるフロイトはノイローゼの治療に無意識の病因となっている欲動を発見するために、患者に自由連想法によって、過去経験（自伝的記憶）を語らせました。したがって、「自伝的記憶」とは精神分析とかカウンセリングによって、カウンセラーがクライアントと治療的関係を形成して、速水の言うように時間をかけて捉えるべきものかもしれませんが、量的研究を行うために、質問紙の調査法で実施することにしました。

集団的だからといっても、速水の言うように「原則的には自由記述法に頼らざるをえない」わけですが、自由記述の内容は被調査者の主観とか個性に影響を受ける面が大きいものです。しかし、このデータの信頼性に問題があるにもかかわらず主観性を捉えられることがまさにこの方法をわれわれがあえて採用する理由です。ただ、信頼性という方法上の問題を改善するため、速水²⁾は、被験者の誰もが同じ以下の5つの観点よりスポーツに関する思い出を記述するようにもとめる「半構造化された自伝的記憶」の研究方法と言う大変すぐれた方法を工夫しています。

その回答から、スポーツに関して特に印象に残る思い出が多い時期とはいつなのか、また、記憶に残りやすい運動場面とはどのようなものか、どのようなスポーツに関する自伝的記憶が多いのか、どのような出来事が想起されやすいのか、さらに、その出来事にふくまれる感情とはどのようなものであるか等を研究するのが本研究の目的です。

次の目的は「自伝的記憶」と現在の動機づけとの関係を検討することです。特に記憶内容の出来事の側面を分類して現在の動機づけとの関係をみることとなります。速水の仮説は、「自伝的記憶」の中での「成功体験」が「現在の動機づけ」を高め、「失敗体験」が「動機付け」を低めるというものと「自伝的記憶」の中に含まれる「感情」によって「現在の動機付け」が決定されるというものです。

II 方法

被験者：女子大学4年生95名。

手続き：被験者は「これまでに経験したスポーツに関して強く印象に残っている、思い出を自由記述するよう」に教示されました。そしてその記述には以下のような尋ね方で5点を含むように指示されました。

1. それはいつおきましたか。
2. それはどのような場面でおきましたか。
3. それはどのような種類のスポーツに関したことですか。
4. どのような出来事がおきましたか。
5. その出来事の後にどのような感情が生まれましたか。

本研究は「現代の子どものスポーツの教育と心理」についての一連の研究をはじめするための予備的研究ですので、速水の研究をスケールダウンして行っています。そのため速水の研究では、10個ですが、本研究の被験者にはスポーツに関する記憶を1個書くように要求されました。

他に現在のスポーツの動機づけを測定するための質問項目を作成しました。具体的には「自伝的記憶」として記述したスポーツのそれぞれについて「今でもやりたいか否か」を、「やりたい、やりたくない、どちらともいえない」という速水の3件法でなく、事前の面接調査で「いまやっている」という回答があったので、それを加えました。また、もう1つの動機づけの指標として現在どれほどの頻度にスポーツをしているかが次の5段階評定で求められました。具体的には、1. ほとんどない、2. 2週に1回、3. 週に1回、4. 週に3、4回、5. ほとんど毎日の5段階です。また、この質問紙の実施時間は、速水の研究（30分）より大幅に少ない、だいたい10分でした。

質問紙は、自由記述に始まりますが、速水の一覧をベースにして事前に調査を行い、可成り変更が加えられています。

(1) 時期 自伝的記憶として覚えられている出来事が起こった時期

- ①就学前、②小学校低学年、③小学校中学年、④小学校高学年、⑤中学生、⑥高校生、⑦大学生、⑧その他 に分類した。

(2) 場面 自伝的記憶となった出来事が生じた場面は次の場面に区分された。

- ①体育の授業、②休憩時間、③放課後、④運動会（体育祭）、⑤体力測定時、⑥クラブ活動、⑦運動競技大会（試合）、⑧家庭内、⑨子供会等地域の活動、⑩スイミングスクール、⑪スポーツ少年団、⑫カルチャーセンター、⑬その他

(3) 種類 スポーツの種類は以下のように分類した。

- ①短距離走（徒競走を含む）、②リレー、③長距離走、④持久走・マラソン・駅伝、⑤跳び箱、⑥鉄棒、⑦マット運動、⑧水泳、⑨一輪車、⑩スキー、⑪バレーボール、⑫バスケットボール、⑬サッカー、⑭ソフトボール、⑮ドッジボール、⑯テニス、⑰卓球、⑱バドミントン、⑲野球、⑳ハンドボール、㉑散歩、㉒ジョギング、㉓ヨガ、㉔その他

(4) 出来事の種類 多くの出来事・体験は次の7つのカテゴリーにまとめられた。

- ①成功体験（試合に勝った、うまくできるようになった等）、
②失敗体験（試合に負けた、どうしてもうまくできなかった等）、
③正の対人体験（誰かに誉められた、仲間意識、集団としてのよい雰囲気等）、
④負の対人経験（誰かに叱られた、誰かと口論した等）、
⑤フロー体験、⑥怪我・危険な経験、⑦その他。

(5) 感情 出来事に含まれる、あるいは出来事に伴う感情は4つに分類された。

- ①正の感情（楽しい、誇らしい、興味深い、自信のある、うれしい、満足等）、
②負の感情（悔しい、恥ずかしい、悲しい、恐ろしい、不安な、落胆する、嫌悪等）、
③中性の感情（驚く、不思議な等）
④その他

Ⅲ 結果

(1) 単純集計と速水の研究との比較

*数字は人数を、カッコ内の数字はパーセンテージを表しています。

1. 時期：それはいつおきましたか？

- ①就学前：2 (2.5) ②小学校低学年前：6 (7.6) ③小学校中学年：5 (6.3)
④小学校高学年：14 (17.7) ⑤中学生：30 (38.0) ⑥高校生：15 (19.0)
⑦大学生：6 (7.6) ⑧その他：1 (1.3)

		今回			速水
1	中学生	38.0	1	小学生	45.8
2	小学生	31.6	2	中学生	25.2
3	高校生	19.0	3	高校生	18.2

2. 場面：それはどのような場面でおきましたか？

- ①体育の授業：19 (24.1) ②休憩時間：2 (2.5) ③放課後：3 (3.8)
④運動会（体育祭）：3 (3.8) ⑥クラブ活動：26 (32.9) ⑦運動競技大会（試合）：10 (12.7)
⑩スイミングスクール：6 (7.6) ⑫カルチャーセンター：1 (1.3) ⑬その他：9 (11.4)

		今回			速水
1	クラブ活動	32.9	*	*	体育の授業
2	体育の授業	24.1	*	*	運動競技大会
3	運動競技大会	12.7	*	*	クラブ活動

* 確認不可

3. 種類：それはどのようなスポーツに関したことですか？

- ①短距離走（徒競走を含む）：3（3.8） ②リレー：3（3.8） ③長距離走：3（3.8）
 ④持久走・マラソン・駅伝：2（2.5） ⑤跳び箱：2（2.5） ⑥鉄棒：2（2.5）
 ⑦マット運動：1（1.3） ⑧水泳：5（6.3） ⑩スキー：3（3.8） ⑪バレーボール：13（16.5）
 ⑫バスケットボール：7（8.9） ⑭ソフトボール：2（2.5） ⑮ドッジボール：5（6.5）
 ⑯テニス：6（7.6） ⑰卓球：2（2.5） ⑱バトミントン：1（1.3）
 ⑲散歩：1（1.3） ⑳その他：18（22.8）

		今回			速水
1	バレーボール	16.5	1	短距離	*
2	バスケットボール	8.9	2	バレーボール	*
3	テニス	7.6	3	リレー・長距離走	*

* 確認不可

4. 出来事の種類：どのような出来事が起きましたか？

- ①成功経験（試合に勝った，うまくできるようになった等）：30（38.0）
 ②失敗体験（試合に負けた，どうしてもうまくできなかった等）：7（8.9）
 ③正の対人経験（誰かにほめられた，仲間意識，集団としてのよい雰囲気等）：13（16.5）
 ④負の対人経験（誰かに叱られた，誰かと口論した等）：9（11.4）
 ⑤フロー体験（内発的に動機づけられて打ち込んでいる状態）：7（8.9）
 ⑥怪我・危険な経験：4（5.1） ⑦その他：9（11.4）

	今回	速水
成功経験	38.0	29.9
失敗経験	8.9	18.5
正の対人関係	16.5	22.3
負の対人関係	11.4	8.1
フロー体験	8.9	4.3
怪我・危険な経験	5.1	5.7
その他	11.4	11.3

5. 感情：その出来事後にどのような感情が生じましたか？

- ①正の感情（楽しい，誇らしい，興味深い，自信ある，有能な，うれしい，満足等）：45（57.0）
 ②負の感情（悔しい，恥ずかしい，悲しい，恐ろしい，不安な，落胆する，嫌悪感等）：23

(29.1)

③中性の感情（驚く，不思議な等）：4（5.1）

④その他：7（8.9）

6. 動機づけ：上に上述したスポーツは今でもやりたいですか？

①やっている：8（10. 1）②やりたい：44（55. 7）③どちらともいえない：19（24.1）

④やりたくない：8（10. 1）

7. 現在のスポーツの頻度：現在それほどの頻度で上に上述したスポーツをしていますか？

①ほとんどしない：65（82.3）③週に1回：9（11.4）④週に2. 3回：2（2.5）

⑤ほとんど毎日：2（2.5）⑥その他：1（1.3）

(2) 出来事，感情，場面，動機付けの結びつき

事例の紹介は，最初に事例番号がきて，質問用紙の質問番号4の出来事の経験の内容と，5の出来事の感情の内容，最後の数字は，6の動機付けの内容の順で選択された数字が示され，最後に自由記述の内容が書かれている。最後の事例のみ7の質問の選択肢が記されています。

① 出来事と感情の関係

	1 正の感情	2 負の感情	3 中性の感情	4 その他
1 成功経験	27	2	0	1
2 失敗経験	1	5	1	0
3 正の対人経験	11	2	0	0
4 負の対人経験	0	8	0	1
5 フロー体験	6	1	0	0
6 怪我危険	0	3	1	0
7 その他	0	2	2	5

事例 27 2-1-1

中学の時に，バレーボール部でキャプテンをしていたときに，チームをまとめる事がむづかしく，苦勞していました。先生が「お前がしっかりしている姿をみせればいいんだよ」といってくれ，うまくはできなかつたけれども先生を支えにくじけることなく必死でチームをひっぱりました。今でもバレー部の仲間は仲良くて先生とも手紙のやりとりをしていて私の中では一番の恩師です。

② 感情と動機付けの関係

	1 やっている	2 やりたい	3 どちらとも	4 やりたくない
1 正の感情	6	28	9	2
2 負の感情	1	11	7	4
3 中性の感情	0	2	1	1
4 その他	1	3	2	1

「やっている」と「やりたい」とを併せた、先行研究との比較

	やりたい		どちらとも		やりたくない	
	今回	速水	今回	速水	今回	速水
正の感情	34	39	9	70	2	4
中性の感情	2	1	1	3	1	1
負の感情	12	12	7	40	4	19

事例 21 3-1-2

マット運動で、先生もできなくて見本を見せられなかった種目をクラスの中で私だけができて先生にほめられた。

事例 19 7-2-2

中・高とソフトテニス部でした。中学の時、顧問の先生が怖くて、1回怒られてほうきを投げられたことがありました。けど、とてもよい先生で私たちのためのことをいつも考えてくれました。

③ 出来事とそのスポーツに対する動機付けの関係

	1 やっている	2 やりたい	3 どちらとも	4 やりたくない
1 成功経験	5	18	5	2
2 失敗経験	1	3	1	2
3 正の対人経験	0	7	3	3
4 負の対人経験	2	4	3	0
5 フロー体験	0	5	2	0
6 怪我危険	0	2	2	0
7 その他	0	5	3	1

事例 51 5-1-2 フロー体験

タモリのテレビ番組「わらっていいとも」を小学校低学年の私が見ていて、体の柔らかい子が出ていたので、私が同じようにやってみたところ、出来ました。出来た私を見て、母が知り合いのモダンバレーの先生に頼んで習わせようとしたのがきっかけです。皆で踊るのはとても楽しいです。

事例 18 6-3-2

練習の時深いプールでしていたらおぼれてしまった。コーチはふくをきていたのに飛び込んで助けてくれました。

④ 出来事と現在のスポーツ頻度

	1 しない	2 2 w 1	3 1 w 1	4 1 w 4	5 毎日
1 成功経験	21	0	8	0	1
2 失敗経験	7	0	0	0	0
3 正の対人経験	12	0	0	1	0
4 負の対人経験	8	0	0	1	0
5 フロー体験	7	0	0	0	0
6 怪我危険	3	0	0	0	1
7 その他	8	0	1	0	0

事例 8 6-2-1-5

ゲーム中に相手の足を踏んで足首の靭帯を切りました。痛かった。一瞬何が起こったか分からなくなった。1ヶ月後の試合のことが頭をよぎった。「痛いー!!!」と叫びました。アイシングをしました。痛いのと試合に出れないかもしれないとで泣きました。チームメイトはびっくりしていました。動けなくて無理矢理動かされそうになって拒みました。痛くて、他のことは気にならなかった。そんながんばりを示した自分に自信がついたし、ますますバレーにやる期がその後も出てきました。

IV 結果の解釈

記述された自伝的記憶が生じた時期は、中学生が一番多く38.0%であり、続いて小学生(31.1%) 高学年14.0%, 小学校低学年7.6%, 小学校中学年6.3%, 高校生は19.0%でした。速水との違いは、今回の調査では中学が多く、速水の調査は小学校のパーセントが倍近くになっている。これは、方法の違いで第1記述から第10記述まで書かせる速水の方法は、意識の古い方が出てくるからと考えられます。また、小学校の記述には運動会とか授業とかがおおく、中学・高校ではクラブが多くなっている。

場面では、クラブが一番多く32.9%で、2位は体育の授業24.1%, 運動競技大会12.7%でした。速水の研究と順位は異なるが、上がっている項目は同じです。

種類は、時期・場面の考察であきらかのように、速水の研究では小学生時代の記憶が多いので、「短距離」「リレー・長距離走」などの学校の授業、運動会、行事が多くなっている。今回の調査では、中学が中心になっているので、クラブ活動が上位に来ています。

出来事の種類では、今回の方が、失敗経験が少ないけれども、負の対人関係の方は多くなっている。これは小学生と中学生との失敗経験の受け止め方の違いが出ているように思われる。

ます。小学生は、失敗そのものを記憶しているが、中学生は失敗に関連する対人関係の記憶が強く残っていると思われます。

感情について、正の感情と負の感情をみてみますと、正の感情は57.0%で、負の感情は29.1%で、中性感情は5.1%となっています。正の感情は負の感情体験よりも倍近く思い出されています。

出来事と感情の関係について、成功体験、正の対人関係、フロー体験を正の感情と理解することはわかりやすいですが、失敗経験を正の感情に分類している事例については自由記述を紹介しています。外の現れは失敗ですが、内面では先生が支え続けていてくれた事実を指しています。

また、感情と動機付けでは、負の感情を持っているにもかかわらず、やりたいとなっているケースが、今回は12事例、速水も12事例ありました。その内容を事例別に吟味してみると、「顧問の先生より箭を投げられたが、私たちのことをいつも考えてくれているとても良い先生であることが分かるようになったから」ということで、出来事はマイナスだが、人間性の学習とか人間関係の質によって、つまり内面的な対人関係の質にかかわる問題が関連していることが理解できます。出来事とスポーツの動機付けの場合も、失敗経験があるにもかかわらずやりたいのは、「プールでおぼれたが、コーチは服を着ていたのに飛びこんで助けてくれました」ということで、出来事と動機付けの間に介在する内面の心理的共感とか人間関係の問題が関係していることが今回の研究から明らかになりました。

文献

- 1) 佐藤 浩一 2000 思い出の中の教師 - 自伝的記憶の機能分析 - 群馬大学教育学部紀要 人文社会科学編 第49巻 p 357-378
- 2) 速水敏彦 2001 スポーツの自伝的記憶と動機付け スポーツ心理学研究 第28巻第1巻 p21-30